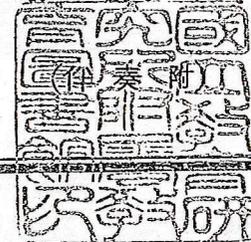


唱歌教科書



# 春の曙

(Weber)

Andante con moto

一ハナヨリアケユク ハルノアケボノ ミネヨリワカ  
二つ きよりしらむ か はるのあけぼの やまのはほの

ル ル ノ ヨ コ グ モ ツ カ ス ミ ニ ツ ツ  
は の ま つ も み ぶ つ つ か す み に ツ ツ

メー ル ヤ モ ト ア サ ゲ ノ ケ ム リ カ ト ホ ク  
めー る さ と び ら い ま し も ゆ め よ り め さ め

ナ ビ シ ネ グ ラ フ ハ ナ レ タ ナ キ ャ ク カ ラ  
の び ら し み そ ら を あ ふ げ ば か り が ね た か

mp  
ス イ ツ コ ラ サ シ テ カ ミ ツ ヨ ツ フ タ ツ  
く い へ ば を さ し て か な き つ れ か へ る

ril.  
pp

# 春の姿 秋の姿

(原作者匿名)

Allegretto  
mf

カハル トニ ヲ マミ チ ヲ ジノ ノ  
三は の の け かに む へ ら き は し  
四ト ヲ け ス ヲ せ せ せ も の の

ラキキ カハル ツシヨ アニニ  
キキ カハル ツシヨ アニニ

ケニ アー ル ヤ ナ ギ ナ ミ キ  
ニ リ ヲ た リ リ は は の ア あ シ ミ  
ニ ラ ラ ラ リ リ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

歌 詞

○春の曙 犬 飛 球 溪

一、花より明けゆく春の曙

峯より別れる空の横雲

霞に包める山もと

朝げの烟か遠くなびく

時を離れてなき行く鴉カラス

何處をさしてか三つ四つ二つ。

二、月より白むか春の曙

山の端ほの／＼松も見えつつ

霞に包める里村

今しも夢よりめざめぬらし

みそらを仰げばかりがね高く

家路をさしてか鳴き連れ歸る。

○春の姿秋の姿 八 波 則 吉

一、川沿町、蛇の目のからかさ

雨に煙る柳並木。

二、ほのかに見ゆ擬寶珠ニセタマシユのそり橋

繪にも似たり春の朝。

三、月澄む庭虫の音しきるよ

チリ、リ、リ、リ、リ、リ、チリ、

四、更け行く空物の音さゆるよ

ラ、リ、ラ、リ、ラ、ラ、ラ、

○羈 旅 犬 飛 球 溪

一、夜なき國か 玉の高樓

寄せ來る浪か 人の往來

これぞ御國の誇と 名だたる花の帝都

今日しも踏み見ていとも樂し

馴れたる故郷を遠く離れ

淋しき心胸に湧けど、

二、掛けし繪巻か 山の姿

延えし生絹か 川の流れ

これぞみ國の誇と 名を得し清き風景

今日しも踏み見ていともうれし

馴れたる故里を遠く離れ

淋しき心胸に湧けど。

○籬の薔薇 八 波 則 吉

一、朝日をうけて 高く薫り

入目を溶びて 眞紅に燃ゆる

籬の薔薇 何に譬へん

汝が 色香。

二、色香を求めて 許多集ひ

ひらひら遊ぶ 胡蝶と共に

籬の薔薇 吾も得去らず

汝が 邊。

○美はしの四季 犬 飛 球 溪

一、山邊も野邊もかすみわたり

春風軽く袖にかざる

仰ぐそらには雲雀うたひ

笑める花には胡蝶をどる

昭和三年四月十日印刷  
昭和三年四月十三日發行

定價金壹圓參拾錢

不許  
複製

編纂者

若狹萬次郎

發行兼  
印刷者

東京市小石川區八千代町四十二番地  
若狹萬次郎

東京市小石川區八千代町四十二番地

發行所

交響社出版部